

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	Adewumi Ifeoluwa Bolanle
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
Community-based tourism in national parks in developed and developing countries: Comparative study of Yakushima National Park, Japan and Gashaka-Gumti National Park, Nigeria			
論文審査担当者			
主査 教授 フンク・カロリン			
審査委員 教授 佐野 真理子			
審査委員 教授 奥田 敏統			
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は国立公園における Community Based Tourism (CBT) の役割に焦点を当てている。国立公園の管理は地域住民との対立を生み出すことも珍しくない。そのような対立を解決するためにする CBT が進められてきた。本研究は国立公園の設置目的と運営方式が住民の観光への関わり方にどのように影響し、CBT の可能性にどのように関連するかを明らかにすることを目的とした。そのためにナイジェリアと日本の国立公園を事例に選び、①両国の国立公園の目的と管理方式を比較し、国、地域、市町村の3つの行政スケールの役割を明らかにした。その上で、②国立公園の地域住民と事業者を対象に調査を行い、国立公園と観光に関する認識と観光に関わる意志を分析した。最後に③CBT を発展させることに当たって障害となる要因を分析し、CBT の発展を進めるための提案を行った。</p> <p>本論文は9章より構成される。第1章では研究の背景、研究の視点、目的と論文構成について述べた。第2章では先行研究を整理した。その結果、保存と地域住民の生活に必要な発展の調整を図るために CBT が提案されてきたが、その実施に当たって発展途上国を中心に様々な障害が指摘されてきたことを明らかにした。第3章では屋久島の事前調査をまとめた。第4章は研究方法と、事例の選定理由と概要について説明した。日本の霧島屋久国立公園（以下 YNP）とナイジェリアの Gashaka-Gumti National Park（以下 GGNP）を事例に住民、事業者、観光者のアンケートという計量的方法と、行政などキーパーソンの聞き取り調査、または GGNP では住民のフォーカス・グループ・インタビューを実施した。</p> <p>第5章は日本のナイジェリアの国立公園制度を管理方法、観光開発、管理の課題と地域住民との共同管理について比較し、その課題を YNP と GGNP の事例から説明した。</p> <p>第6章ではアンケート回答者の特性をまとめ、認識や考え方に影響する要因を洗い出した。</p> <p>第7章は国立公園に対する認識、観光に対する認識、観光事業や観光管理への関心、そして観光の発展に関わることを阻害する要因を分析した。アンケート分析では一般世帯と事業者の違い、そして YNP と GGNP の回答者の違いを t 検定やカイ二乗などの検定および因子分析で検討した。</p> <p>第8章では第1章に上げた研究課題に即して、研究結果と先行研究を比較した。本研究が明らかにした主な結果は、①国立公園の設置目的が異なっている両事例では地域内の公園に対す</p>			

る認識も異なっていること, ②観光発展が地域にもたらすメリットについて基本的な認識が高い中で, 回答者の様々な属性がその程度に影響していること, ③観光開発が進んでいる地域の方が観光の課題も認識されている一方で, 観光開発が進んでいない地域の住民の方が観光事業について積極的である傾向, ④観光に対する専門知識の不足と住民の認識不足が観光発展の阻害要因となっていることである。

第9章は両国の国立公園において CBT を進めるための提案を行い, 今後の研究課題を提示した。

本論文は国立公園の運営方式が観光の発展と地域住民の観光への関わり方に関連するかどうかに注目し, 先進国と発展途上国を比較したことにオリジナリティがある。比較研究としては課題もあるが, 資料と現地調査に基づいた分析を行い, 調査方法をそれぞれの調査対象に合わせて適切に使用したこと, CBT の発展を進める中で地域住民の国立公園と観光に対する認識を分析し, それに影響する要因を明らかにすることが本研究の成果である。そうした点で, 本論文は, 国立公園における CBT の発展に貢献する研究であると高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は、博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと論文審査担当者は一致して認めた。